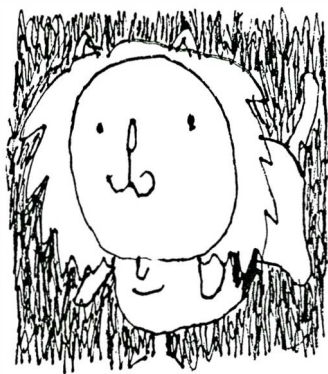


富山大学 No.90 学園ニュース

特集 「新入生歓迎」



表紙の紹介



教育学部中学校教員養成課程

4年 デザイン専攻

松本光徳



新入学生のみなさん
入学おめでとうございます。

春らしい作品として
描きました。



学園ニュース

No.90 CONTENTS

特集 「新入生歓迎」

—豊かな学生生活を送るために—

充実した学生生活をおくるために 学生生活協議会委員 教育学部教授	長谷川 総一郎 … 2
教養 — 何のために? 人文学部教授	岡村 信孝 … 3
教師を志して富山大学へ入学されたみなさんに 教育学部教授	山下 三郎 … 4
彷徨の時代 理学部助教授	金森 寛 … 5
私の学生時代を振り返って 教育学部助教授	金久 博昭 … 6
大学生活の入り口で — 富大インフォメーション ……………	7

特集 「デジタル時代を生きる」

デジタル時代を生きる 人文学部助教授	筒井 洋一 … 9
デジタル時代を生きる? 経済学部助教授	醍醐 元正 … 10
デジタル時代を生きるために 工学部教授	西塚 典生 … 11

わたしの研究室

素敵な? 中国言語文化研究室 人文学部言語文化学科4年	木船 尚子 … 12
内容の濃い実験と国際色豊かな物理ゼミ 教育学部物理学科	一同 … 13
応用経済学講座古田研究室 経済学部経済学科3年	斉藤 修一 … 14
合成有機講座第二研究室 理学部理学研究科化学専攻1年	今井 亮二 … 15
わが輩はタヌキである 工学部生体分子化学I講座	一同 … 11

留学生コーナー

もっと国際交流を 経済学部経営学科4年 MOHD FAIZOL HJ ABD HAMID … 17

トピックス

総合情報処理センターの誕生 情報処理センター長	山淵 龍夫 … 18
インターネットの世界へ 情報処理センター専任教官	高井 正三 … 19
附属図書館の増築について 附属図書館長	瀧澤 弘 … 20

学生部だより

厚生関係の諸手続案内 ……………	21
平成7年度 後期授業料免除について …	23

保健管理センターだより

保健管理センターのご案内 保健管理センター講師	西村 優紀美 … 24
目もらいくくり 保健管理センター教授	中村 剛 … 26

キャンパスウォッチング

—工学部壁画「無限の創造」について— 教育学部教授 丹羽 洋介 … 28



充実した学生生活をおくるために

学生生活協議会委員 教育学部教授 長谷川 総一郎

新入生のみなさん、これからは自分の判断でその日の行動をきめなければなりません。自分でスケジュールをきめるのですから毎日を日曜日のようにくらすことだってできます。したがって、まるで夢のような自由人にもなれます。

親元をはなれている学生はもちろん、自宅通学生といえども門限からも禁酒からも解放されました。こんなに楽しい空間、こんなにおもしろい時間は、キャンパスのそとにも4年後にもほとんどないでしょう。

しかし、これほど自由な生活がおくれる陰には危険も満ちていることを自覚しなければなりません。交通事故、コンパでの急性アルコール中毒、入信をせまる会からの勧誘、電話による資格商法やキャッチセールスによる不本意な契約、アパートからの過失の出火、異性や人生にからむ心の悩み、アルバイト先での薬物への誘惑、エステティック願望や不摂生な生活からくる体のトラブル、登山での遭難など、われわれからみますと学生のまわりには不安材料があります。

こうして原稿を書いているあいだも、わたしの授業に参加した1年生の男子学生がアパートで事故死しました。原因はタバコ火が発泡スチロール製の畳におちて有毒ガスを発生し、これのCO中毒のようです。誠実な学生であっただけに、悲しみでいっぱいです。最近の気密性がたかく化学製品でつまったアパートの個室は、死と背中あわせであることを裏づけています。

安心して学生生活を続けていくにあたってこのような不安や危険から学生をまもることも大学のひとつの務めです。このために大学では届け出のルールや支援のシステムをつくっています。自家用車、アルバイト、登山や野外活動、掲示、団体の結成、宿所などは届け出制になっています。奨学金などの希望は年2回募集しています。保健管理センターでは心や健康に関する相談をまっています。また学生一人ひとりに助言教官があてられ、進路のことなどなんでも相談できる体制をとっています。担任のようなものですから、はやくその先生の研究室をたずねて望ましい関係をつくってください。1年生から学科・専攻の授業が受けられますので、その先生とかかわりをもつこともできます。

履修方法などについては学務係や教務係でうけつけています。気軽に話しかけてください。もちろん加入したサークルやそれぞれの学科・専攻の学生のほうがもっと身近に話しやすいでしょう。講義・実習や部・サークルに参加して頼れる友人を多くみつけてください。

大学のそとにも容易に友人ができ、あるいは自己発見できる場所が多くあります。ボランティア活動、英会話学校、美術館、演奏会など。地域の人々や文化との触れ合いによって新しい発想がうまれるかもしれません。さあ行動にうつってください。

教養 —— 何のために？

人文学部 教授 岡村 信孝

新入生のみなさん入学おめでとう。大学に何を求めて君は入ってきましたか。自由を求めて、あるいは専門教育や資格を求めて、という人も多いでしょう。そういう人は、なぜ大学に教養なんかあるんだ、と言いたくなるかも知れません。でもそうきめつける前にちょっと考えてみませんか。教養とはどういうもので、またそれを身につけることにどういう意味があるのか。

この言葉は大正期以降、英語の culture やドイツ語の Bildung の訳語として使われるようになった言葉で、教養を身につけるとは、広く学問・芸術に触れることによって心を豊かにすることとして理解されています。この意味では、教養は単なる多識ではなく、情意も含めた心全体の修養 (cultivation)、豊かな人格形成 (Bildung) のことを言うのです。

しかし、教養なんか身につけて何になると君は言うかも知れませんね。自分が大学教育に求めているのは専門的知識や技能なんだ、と。確かにこれらを身につければつけるほど、君は「有能」な専門家として他の人にはできない「仕事」をすることができます。その仕事によって君は目に見える形で社会に貢献することができます、また社会から評価され、その評価に応じて富や権力や名声を獲得することができます。しかし教養は一義的にはこのように人間に「能力」を与えるものではありません。それは豊かな心と、人生を楽しむ術 (アート) とを我々に与えてくれるものなのです。これをほしいと思うか、それともそんなものいらないと思うか、それを決めるのは君自身です。

では、どうしたら教養を身につけることができ

るか。そのためには、広く学問・芸術に触れ、それを学び味わい楽しむことです。このうち僕は広く触れることと楽しむこと、特に後者を重視しています。広い知識を得るためには興味がないことでも我慢して学ばなければならないという考えがあることは僕も承知しています。しかし興味のないことを我慢して勉強して「教養」が身につくのでしょうか。知識は一応得られるでしょう。でもそういう知識は活用されないかぎりは早晚失われていきますし、またそれを一時的に持ってもそれで君の心が豊かになるものでもありません。

こういう訳で、楽しむことをこそ、君らには大事にしてほしい。そしてそのためにも、自分の興味関心を大事にしてほしい。それと、出会いを大切にして、色々な学問や芸術に広く触れてみてほしい。新しい興味関心が君らの心の中に生まれてくるかも知れません。生まれてきたら、それをも含めて、自分の興味関心を育ててほしい。良い授業というのは、君らの心の中に新しい興味関心を呼び起こしたり、あるいはもともと君らが持っている興味関心に応えてくれる授業のことです。こういう授業ができるかどうかは、我々の問題です。君らの問題は、一方で我々にそういう授業を求めながら、授業を通して、あるいはそれを超えて、自分の興味関心を育てていけるかどうかです。育てていくには、自分で調べるとか、教官に質問に行くとか、学習の仕方についてアドバイスを求めるとか、他の学生から刺激を受けるとか、色々やり方があるはずですが。要は行動することです。これから始まる大学生活が君らにとって真に有意義なものになることを祈ります。

教師を志して富山大学に入学されたみなさんに

教育学部 教授 山下 三郎



新入生のみなさんおめでとうございます。当富山大学は、教育学部をはじめとして、いずれの学部でも教員免許状が取得できるようになっています。私が所属する教育学部の目的は、将来教師になる人達の教育を担うことにあるので、教師を志すみなさんに職業指導の立場から学生生活の心構えを申し上げ、歓迎のことばにかえたいと思います。

一般社会への就職状況が超氷河期といわれる昨今、教育学部でも卒業後の教員採用が極めて厳しいというのが現実です。いやなことに教員需要の回復は、世の中の景気に関係なく全く可能性がないということでもあります。富山県を例にとりますと、数年前までの新規教員採用は、四百人台だったのが現在では百人台に落ち込んでしまいました。今後、一時的に八十人台まで落ち込むことすら見込まれます。これは少子化による全国的傾向といえます。一方、教員採用が少なくなっただけに、採用する側は今まで以上に優秀な人材を厳選するようになり、各都道府県は全国的規模で人材を求める傾向が強くなってきました。優秀な人材とは、教師への適応能力と一定水準以上の学力を有することを指すようです。

教師への適応能力とは、バイタリティに富んだ個性豊かな人間性、人への思いやる態度、はきはきした人との対話能力などに加え、子ども好きなどがあげられます。これらを培うには、サークル活動、合宿体験、ボランティア活動などの豊富な体験を積むことがなによりだと思えます。また、

自ら、先生方に積極的に接するようにすることも必要です。

学力とは一般教養、教職教養、専門教養を指しますが、富山大学に入学したみなさんの学力水準と大学受験に伴う自学自習の習慣が身につけていれば、けっして程度の高いものとはいえません。みなさんの大学生生活は先ずは授業を受講することに加え、今まで経験することのなかったさまざまな経験をすることから始まります。そして教養と専門性を培いつつ、豊かな人間性を身につけていく第一歩を踏み出すことになりました。しかし、へたをすると従来身につけた自学自習の習慣などは、一ヶ月もすればあっというまに消滅してしまうのもこの時期です。いったん消滅した生活を取りもどすのは並大抵ではありません。豊かな学生生活を大切にすると同時に、従来読めなかった本の読書などを含め、一日に1～2時間は机に向かい、自学自習の習慣をくずさないようにすることこそ肝心です。できれば、教員採用試験を意識した月刊誌の早期購読をすすめます。これらの月刊誌は毎年7月号からはじまりますが、ここからはさまざまな教育情報を得ることができ、後期から始まる専門の授業の意味を自分なりに把握しつつ授業に望む姿勢が培われることになると思います。教師を志すみなさん、途中でくじけないでください。初志貫徹の姿勢は、その人の人格形成に深くかかわり、たとえ将来どのように生きる場合でも高く評価されることに連なると思えます。



彷徨の時代

理学部 助教授 金森 寛

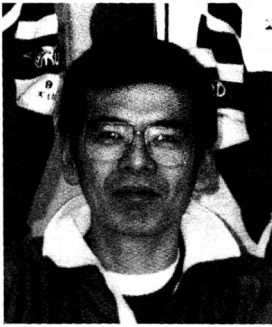
30年前である。私は、大阪大学理学部の数学科に入学した。なぜ、数学科を選んだかという、高3の担任が数学の先生であり、何となく馬が合ったその先生に影響を受けたのである。このような単純な動機から学科を選んだ私は、入学後、たちまち壁におつかってしまった。大学の数学に興味をもてなかった。いや、理解できないから、興味を失ったのだろう。同級生の中には、受験数学とは全く異なる新しい数学の世界に没頭し、すばらしいひらめきを感じさせるものもいた。そのような連中と互角に勝負をして、数学の世界で生きていく自信は、私には全くなかった。

そんな折、高校時代の友達が美術部に入っていたのがきっかけで、私も美術部に入部した。教室から逃げ出したかった気持ちも強かったのだろう。私の入ったクラブ（トラバイユという名前が付いていた）には、実に個性的な先輩があふれており、特異な環境を作り出していた。まず、デッサンなどによる基礎的な絵の練習は全くしなかった。夏の合宿のときも、スケッチブックさえ持って行かなかった。みんながそれぞれの感性と個性だけを武器に、大きなキャンバス（当時はベニア板を利用していた。標準サイズはベニア1枚半。中には、ベニア10枚の大作に挑戦するものもいた。）に、絵の具とペンキでそれぞれの思いをおつけていた。このような状態であるから、技術的なことは全くお話にならなかったが、ベニア板の上にはそれぞれの生の自己主張があふれていた。言葉はなくとも、キャンバスに描かれたものから、その人の内

面を見ることができた。私のように自分の居所を探している人が多いことも知り、部室が教室よりもはるかに居心地の良い場所になってしまった。

2年に進級する頃までに、私は化学科に転学科する決心をしていた。専門課程（数年前まで、ほとんどの大学は教養課程と専門課程に分かれていた）に上がるために必要な科目が数学科と化学科では異なっていたため、私は二つの学科の講義を掛け持ちで受けていた。2つの学科の進級必要単位を揃えるために、興味を失っていた数学の勉強にも力を入れた。そのおかげで、数学のおもしろさが少しわかってきたのは思わぬ副産物であった。最初は興味がわからないことでも、真摯に取り組むことによって初めて、そこに内在するおもしろさが見えてくることを知り得たのは、その後につながる貴重な経験となった。

こうして数学に少し未練を残しながらも、3年の専門課程から、正式に化学科の学生になった。このころから、70年安保の動乱と大学紛争が激しくなり、言葉と行動による自己主張がぶつかりあった。クラスは二分、三分された。今の一見和気あいあいとしたクラスの雰囲気とは全く異なるものであった。しかし、今振り返ってみると、生涯の友人となったのは、いがみ合いもしたクラスの仲間であり、キャンバスに自己主張をおつけ合った美術部の仲間である。二つの原子は、お互いの領域に侵入し合うことで、化学結合を作る。人と人との強い絆も、単に居心地が良いだけの距離からは生れないのではないだろうか。



私の学生生活を振り返って

教育学部 助教授 金久博昭

私にとって学生生活は些か長く、大学生としての4年間で院生としての6年間の計10年間でそれに担当する。それらの両方が思い出深いものであるが、仮に優先順位を付けるとすれば、やはり大学生としての4年間で重きをなす。

今から20数年前のことであるが、私は東京に在る私立の某体育大学を卒業した。とにかく体育大学特有の校風のなかで、所属していたクラブ（空手道）の活動を通して、心身の両面にわたり徹底的に鍛えられた。特に最初の2年間は、「楽しい」とか「愉快」といったことに、全く無縁だったように思う。監督、コーチ、上級生の考えることに異論を挟むことなどは皆無に等しい完全な縦社会のなかで、クラブ活動を生活の中心に置いた毎日であった。その実態は、今日の学生にとってあまりにもかけ離れたものであり、語る必要もなからう。ただひたすら己の肉体を痛めつけ、誰よりも強靱な心身を求め続けた日々であり、大学での授業は出席するだけで、その大部分を寝て過ごした。おかげで身体だけはまさに“體育”大学の学生としてふさわしいものとなったが、反面、知識水準はかなり低下してしまったことも事実である。当時の私の状態は、まさに脳細胞まで“液状化”ならぬ“筋肉化”してしまった、という表現が一番当てはまるであろう。

しかし、そんな私にとって転機となったのは、大学3年次にゼミとしてキネシオロジー（身体運動学）を選んだことである。キネシオロジーとはギリシャ語のkinesis＝運動と、Logia＝学問と

いう2つの言葉から合成されたものであるが、身体運動のメカニズムについて、解剖学、生理学、力学といった観点から解明していくことを研究課題としている。当時の私にしてみれば、そのような主たる研究領域など知る由もなく、それを選んだ動機は、実技系のゼミが圧倒的に多い中、風変わり面白そうだというきわめて単純なものではなかった。指導教官に連れられて研究室を初めて訪れた時の第一印象は、20年以上たった今でもよく覚えている。それまでの2年間、大学での授業は休養の時間と決めていた私にとって、様々な分析機器が並ぶ研究室の内部もさることながら、学生が中心となり英語の論文を資料に議論していたことが非常な驚きであった。とんでもないゼミを選んでしまった、という後悔よりも、体育大学だからこそ備え得る特性に触れ、首から上も鍛えなきゃダメだぞ、と思わせる雰囲気がある。以後、クラブとゼミでの活動に大学生活の大半が費やされることになるのだが、結果的にゼミの延長線上に大学院での6年間があり、そして現在の私がある。

そんな私から新入生の皆さんに送るエールは、己の長所を最大限に伸ばすことにエネルギーを集中しろ、これだと思いを徹底的にやりぬけ、ということである。でなければ大学生となったことの価値は半減するであろうし、後の人生において学生時代を振り返ったとしても、希薄な思い出しか残らないであろう。

大学生活の入り口で

富大インフォメーション

入学試験。合格発表。いろいろな手続。そして、入学式。……「トミダイ」という略称を口にしたり耳にしたりするときの、あのこそばゆい気持ちが少しずつ薄らいで、やがて当たり前になる頃、日常が目の前に立ちはだかっていることに気がつきます。これはその「大学生活」の、ほんのささやかなガイドです。

『学園ニュース』が読みたい……

うれしいですねえ。編集部は、学生諸君に興味ある特集を組むのに、いつも脳ミソをしぼっています。奨学金や健康管理など、就学上・生活上の情報も掲載されます。

入学式の際は新入生全員に配られるのですが、それ以後はそういう機会がありません。しかし、いつも各学部の学務係窓口にあります。自由に取って読んで下さい。大学ではHRがないので、そういう形で「配る」しかないのです。

年に3回、夏・冬・春の休み明け頃に刊行されます。学務係の窓口にご注目！

新聞が読みたい……

下宿やアパート住まいになると、自宅通学では思いもよらないことで困っちゃうことが、いろいろあるものです。例えば、新聞。世の中の動きはテレビやラジオで一応分かりますが、どうしても目が活字を求めますよね。一人で購読するのはちょっとネ、という場合は、附属図書館2階の「新聞閲覧コーナー」を利用して下さい。その日の主要新聞と富山の地方紙が読めます。

正門からまっすぐに伸びるユリノキの並木道。附属図書館は、そのつきあたりにあります。



本が読みたい……

活字に飢える日々。友達の豊かな本棚がうらやましい。その渴きこそ学生固有のものでしょうか。年に二百冊は読破するゾと志を立てている人がいるそうですが、それを全部買うというのは大変なことです。県立図書館・市立図書館なども蔵書にそれぞれ特色があつておもしろいのですが、身近なのは、やはり大学附属図書館です。

附属図書館は、専門書から一般書、古典から近刊まで、実にさまざまな本を備えて利用を待っています。なんと、朝8時半から夜8時半まで利用できるんですよ。

大学に入ったのに、附属図書館を利用しないとしたら！ 本当にもったいない。

利用の仕方など詳しいことは『学生生活案内』に掲載されていますが、とにかく、早速、カオを出して下さい。…ア、学生証を忘れずに。「図書館利用証」を交付してもらうのに必要です。

食事はどうすればいい？……

下宿やアパート住まいとなると、食事は大きな問題です。食べない！ というテもありますが、健康上、よろしくありません。

図書館は、頭脳の栄養補給所。その右手にあるのが肉体の栄養補給所、大学食堂です。

この食堂は1973年以来、富山大学の胃ぶくろを支えてきました。1日の利用者数が1,200人を超えることもありますから、相当込み合います。慣

れない新入生は、食べそこねることもあるようです。

移動店舗では弁当が売られています。天気の良い日などは、青空の下でピクニック気分なんてどうでしょうか。



大学食堂の向かいに、学生会館があります。レストランがあって、ちょっとした食事もできます。

工学部には、第2大学食堂があります。ただ、生存競争がかなり激しいようです。

ちょっとした買物は？……

大学食堂の2階に購買部があります。本や文房具、電化製品、CD、日用品まで扱っています。「ちょっとした」どころか、そこいらのスーパー顔負けの品ぞろえ。わざわざ町まで出なくても、ほとんど生活できちゃいます。

生協（富山大学生生活協同組合）に加入すると、「組価」で買物ができるほか、いろいろトクになることがあるようです。

授業で使うテキスト・辞書類も扱っています。前期・後期の始まりはずいぶん混雑しますが、気おくれしないで、突撃！

ちょっとした収入がほしい！……

不幸にして病気とか怪我とかした場合、親に甘えることもできますが、サークルや部活、旅行やコンパなどでネダるのは、ちょっと気がひけるもの。不時の出費はあるものですが、学生ローンなどはやめましょう。可能な範囲で精一杯生きるのが、学生らしさというもの。

アルバイトは、学生部厚生課が「学生にふさわしい職種に限り」斡旋します。そりゃそうです、

教育機関ですもん。……厚生課に出かけるときは、学生証を忘れずに。

時々あるんですよ、アルバイトの方がおもしろくなってしまって、授業に出なくなって、結局、退学なんてことが……。それも一つの選択かも知れませんが、しかし、大学に進学した目的は何だったのか。学業そっちのけになったら本末転倒というものです。ホドホドに、ということでしょうね。

『学園生活の窓口』は？……

高校までは、先生がさまざまな事務的なことを指示してくれたと思います。大学では、そういう事務的なことを専門に受け持つ担当者がいて、必要な連絡はすべて掲示によって行われます。一日に一回は、掲示板を必ず見るようにして下さい。

何か大学に求めることがある場合は、自分で手続きをしなければなりません。そんな時、『学生生活案内』が役に立ちます。「学園生活の窓口」という欄の「こんなときはこちらへ」という記事は、実に懇切ていねいです。大いに役立てて下さい。

富山大学教職員一同、新入生のみなさんが充実した学生生活を送ることができるよう、心から祈っています。





デジタル時代を生きる

人文学部 助教授 筒井 洋一

デジタルカメラ、デジタルビデオ、デジタル技術など、いまやデジタル製品は花盛りです。

「デジタル時代を生きる」ということについて書くようにと言われたのですが、私は文科系の教官ですから、電気製品や機械は苦手です。

ただ、その私が、ここ二年ほどインターネットに凝ってます。そもそも「デジタルとは何か、インターネットとは何か」という詳しい説明は専門家に任せるとして、私の役目は、シロウトでもデジタル時代を楽しく過ごせるんだ、ということをお伝えすることです。

インターネットはコンピュータを使いますが、シロウトにはコンピュータほどやっかいなものはありません。威圧感のある機械を前にして、複雑なキーボード操作とカタカナ言葉の氾濫です。たしかにこういうことを考え出すと憂鬱になります。

でも、インターネット（主にホームページを見る機能）の世界はこういうイメージと異なり、シロウトの味方です。基本的にはマウスだけで、簡単に操作できます。

それに、従来のコンピュータは専門家向けでしたが、インターネットは、人間同士のコミュニケーションに役に立ちます。直接会って話したくとも会えない時に、インターネット（特に電子メール）を使うともっと世界が広がります。電話や手紙は、

一対一の関係で相互に対話ができますが、より多くの人に自分の持っている情報を伝えたいと思ってもできません。テレビやラジオも、自分の情報をいつも伝えてはくれません。

私は、昨年一月の阪神大震災の時に、インターネットの威力を痛感しました。関西出身の私には現地に多くの友人や知人がおりましたので、緊急事態に対して自分になにかできることはないかと考えました。かといって、震災直後の混乱期に現地に行っては救援活動の足手まといです。

そこで、インターネットを使って、富山で役に立つことを考えたのです。電子メールで、国内外のさまざまなところに震災の窮状を伝えると共に、支援の依頼をしました。するとあっと言う間に世界中から地震に対する同情と被災者に対する哀悼の意を表する返事が十通、二十通とやって来ました。海外から知人の安否を尋ねる問い合わせや心理学者や医者などの専門的アドバイスも来ました。

こうして、私は、インターネットによって、遠く離れた見ず知らずの人々からの限らない共感を感じることができました。このようにデジタル時代は、人間と人間との心のつきあいを大切にする時代なのです。

皆さんも、とっておきの人間のつきあいを、新しいメディアで体験しませんか。

デジタル時代を生きる？

経済学部 助教授 醍醐元正

浮世の義理からこの原稿を引き受けましたが、私は「デジタル時代」という様な名詞は好きではないのです。これは私の計算機オタクとしての被害妄想かもしれません。

しかしこの言葉から私は例えば「計算機の好きな人間は考え方も二値論理的になって、イエスカノーかはっきりした事を好む様になる」とか「あいつは計算機が好きだからきつと毎朝、計算機の前に座ると話し掛けているに違いない」等という馬鹿な言辞を連想してしまうのです。

どう馬鹿だって計算機をよく知っている人間はそれが機械である事をよく知っています。機械に感情移入をしかねないのはその内部構造を知らない人間です。

また「デジタル」「計算機」から「二値論理」「イエスカノー」を思い浮かべるのはデジタル技術の本質を理解していないからです。こういう人は自分の脳の中では総ての情報はパルス列に符号化されている、即ちデジタル表現されているという事実を御存じなのでしょう。

では真面目に考えて「デジタル」「アナログ」とは何なのか。ここからは私だけの意見かもしれませんが、「デジタル」とはある情報を離散量を使って表現する事で、「アナログ」とはそれを連続量を使って表現する事です。例えば私の身長を1.78mと表現するとこれはデジタルで表現した事になり、一方私の身長と同じ長さの紐で示すとそれはアナログ表現した事になります。こう考えると整数、有理数で表された情報は全てデジタル表現されている事になり、一方アナログ表現と対応するのは無理数という事になります。また、電圧等の物理量を使うと情報はアナログ表現される事になります。もっともデジタル計算機の中では、

情報は物理量でデジタル表現されていますが。

結局我々は大昔からデジタルもアナログも両方、それを利用する時の状況に応じて臨機応変に使い分けていたという事が判ります。この事からも今を「デジタル時代」と表現するのはおかしいというのが私の考えです。

とはいうもののマスコミ等には確かに「デジタル時代」という文句が沢山登場します。それは何故か。結局今我々が持っている情報処理機械の内部での情報表現がデジタル方式だからです。

我々人類は約50年前に初めて「デジタル計算機」という我々の脳の機能の一部を代行する機械を手に入れた。そして現在その機械が社会に広く浸透し始めて、社会のあり方にまで影響が出る程その中の情報の伝達・蓄積・加工の方法を変え始めた。それが「デジタル時代」という言葉の意味でしょう。

この場合デジタルという言葉は情報処理機械の内部の話であって事の本質とは関係ありません。殆どの方はテレビの動作原理を知らずに一生を過ごすのです。問題の本質はこの機械がこれからの社会のあり方に影響を与えるだろうと言う事です。それとかなり深く深い影響をです。

こう書くとそれは大変な問題の様に思われるかもしれませんが、そんな事はありません。社会は色々な事物の影響を受けて常に変化しているものです。これもその変化の一つに過ぎません。

約100年前我々の先祖は「文明開化の時代」に電信柱に登って手紙を電線に結んだりして大騒ぎをしたそうです。多分皆さんの中には将来「〇×△□の時代」等という題でこれと似た内容の文章をパソコン上で書いてネットワークで投稿させられている人も出てくるのではないのでしょうか。

デジタル時代を生きるために

工学部 教授 西 塚 典 生

近年の科学技術の進歩により便利な世の中になって大変結構な事である。デジタルコンピュータやOA機器、通信機器なども身近なものとなって来たようであるので、便利な物を上手に活用して学生生活を豊かにする事に役立てたいものである。

手計算では困難な問題もコンピュータで短時間で答が出て来るのを見る事は、大いに愉快的な事である。その為にはプログラミングや数値解析を勉強し、最初は平易な問題で実験してみられると良い。パラメータの値を少しずつ変えて、繰り返し計算を実行させるような場合は、数値のデータのままで大量にプリントアウトさせるとそれをグラフに書き直す手間も膨大となるので、一度磁気的に記憶させ、このデータを用いて図形的に出力させる。解析はデジタルで詳細に、表示はアナログ的に全体の変化の様子も良く分かるように工夫する。

テレビジョンなどもパルス信号系列を受信し、画面では巨視的にアナログ信号に変換した映像を鑑賞する。この例のように物事は大局的に見る事によって全体を認識し正しく理解する事が出来るのである。その為には、局所的にも正確なパルス信号を送受信し、有害電波を防ぎ、インピーダンスの不整合を無くする事が大切である。

ラジオやテレビジョン放送は周波数分割の多重通信方式であるが、デジタル技術の進歩により、電話などでは時分割の多重通信方式も実用されるようになった。デジタル化により回路が単純化され、資源も電気エネルギーも大いに節減され、雑音もなくなった。S/N比は極めて良好である。

デジタルとアナログ、デジタル多重通信方式な

どと我々の勉強法との類推対応を考える事は興味深い。授業時間割が発表されると、履修届を提出し、毎週所定の時間に受講科目を継続的に受講する。毎週の授業は雑念を排除して正確に受信し理解する事を1学期間積み重ねる。全体を復習し大局的にも良く理解する。試験には応用問題や宿題も含まれるのでしっかり練習を積む。練習や復習により、種々な科目との関連性も分かって、全体的な理解が更に増して了解度が高くなる。その時、満足な試験結果も得られ豊かな気分が実感される事となる。

標本化の定理によれば、最高周波数 f_m を含むアナログ信号を標本化して、パルスの伝送し、歪なくアナログ信号を再生する為には、標本化の周波数 $f_s \geq 2f_m$ であれば良いという事である。これは履修科目の授業は毎週休まず必ず受ける事と、1時間の講義に対して2時間の「学修」を必要とするという事に似ている。1学期(15週)分の授業の内容は量も多く、難解な箇所もあるかも知れないが、各自で勉強の方法を工夫して、時間を上手に使って、学習効果を高めてほしいと願っている。就職指導担当を経験させて頂いたが、本学学生諸君に対して大きな期待が寄せられている一方で極めて厳選されている現状もある。しかし、志を立て研鑽に励むならば、就職にも進学にも視界は開け志望は実現されるに相違ない。

本学は関係各位の御努力により環境も良く設備も整って、教育・研究活動も極めて熱心である。新入生諸君の双肩に掛かる期待もまた多大である。実り豊かな学生生活を送られる事を願っている。

わたしの研究室

素敵な？中国言語文化研究室

いったいどこまで続くのだろう？と思わせるような長い長い階段を、この建物（語文棟）の最上階である4階までのぼりきったところに、私たちの中国言語文化研究室はあります。夏の暑い時期や荷物の多い時にはちょっとうんざりしますが、窓一面どこからでも呉羽山と城山が見渡せ、空の彼方へだんだん小さくなって消えて行く飛行機や、空を染める真赤な夕焼け、時には理学部の屋上でたたずむカップルを眺めることができる、とてもすばらしいロケーションです。

毎年、各学年十数名、2～4年あわせて三十五名前後というメンバーでこの研究室は成り立っています。ひたすら真面目に中国語・中国文学という学問を追究しているものがこのうちのごく少数。勉強にはすこーしだけ関心があり、ほかの時間はアルバイトやサークル活動や恋愛に精を出しているものが大多数。そしてめったに研究室に顔を出さず、会ったときには必ず「久しぶり～！元気？」と言われている人も……いないとは言えません。

中国言語文化研究室（略して中文）という名の通り、私たちは日々中国の言葉や文学について研究しています。一口に中文と言っても研究のジャンル・時代はさまざまです。大きく分けてもまず語学と文学があり、扱っている時代もとてつもなく広いのです。しかし、個性豊かで幅広い知識をお持ちの先生がたが、私たちのどんな関心事にも応えてくださいます。多かれ少なかれ中国に関心を持っていることが、この研究室のメンバーの共通点でしょう。ここ数年は毎年、3年次の夏休みに中国へ短期留学をしており、恒例行事になりつつあります。ちなみに私が行った時は、二週間、遼寧大学という所で中国語の授業を受け、その後北京と上海を観光する計三週間の旅でした。日頃の勉強の成果を遺憾なく発揮し、中国の人達とコミュニケーションをはかる……ことができず言葉の壁を感じた三週間でしたが、道端に並ぶ露店で果物を買ったり、お決まりのトイレにおけるカルチャーショックなど現地の生活を楽しみました。自分の足で万里の長城を登ったことや、壮大な故宮をはじめとする多くの遺跡を歩いた感慨も忘れられません。中華料理も点心もおいしかったし、パンダもかわいかったし、本当にいい旅でした。もっと中国を知りたい！と言う人には長期留学への道もあるんですよ。

これからも素敵な思い出がたくさんできる、素敵な中文であってほしいと思っています。



人文学部
言語文化学科4年

木船尚子

わたしの研究室

内容の濃い実験と国際色豊かな物理ゼミ

こんにちは、物理学研究室です。このゼミは、教育学部理科専攻の物理を選択した人たちが集まるゼミです。その内容は、固体の磁性に関する研究が主で、NMR（核磁気共鳴）などの実験を中心に取り組んでいます。どうして教育学部なのに実験をするの？とよく聞かれるのですが、理科という教科には実験が付き物で、実験に対する意欲や関心を養うために日夜実験が必要というわけ…と勝手に解釈している私達です。がしかし、このゼミではかなり本格的な研究を行っていて、教育の中の理学部とも呼べるでしょう。というのは教育学部2棟1階にあるゼミ室には、実験機械や器具が所狭しと並んでおり、異様な空間を作り出しているからです。教育学部の中にこんな立派な実験室があったのかときっと驚くと思います。興味のある方は、ぜひ見に来てください。

さて、メンバーの紹介に移ります。現在の研究室のメンバーは、4年生3人、大学院生4人、研究生1人と先生2人の総勢9人です。ゼミ室は非常に狭く、学生8人の机だけで満員御礼の状態ですが、みんなそれぞれに実験室に散って行くせいか、ゼミ室に全員がそろうことはほとんどありません。そのせいか、春はお花見、夏はビアガーデン、秋は？、冬は忘年会などとゼミ室を離れての交流がかなり多いゼミといえるでしょう。

先生方もそれぞれ個性的でいらっしゃいます。実験機械を自分で作ってしまう清水先生、面倒みがよくて学生からの信頼が厚い市瀬先生。この2人の先生方は、実験について何にも分からない私達を、最後まで見捨てないで温かく指導して下さいます。またこのゼミには研究生が一人います。その人の名は、イスラムさん。遥か彼方のバングラディシュからやって来ました。最初は全く日本語が話せず、周りのみんなも緊張していましたが、今ではすっかり日本語がうまくなり普通に会話できるようになりました。しかし、時々おかしな日本語を使って私達を楽しませてくれます。そんなイスラムさんはこのゼミには欠かせない存在です。

というわけで、この研究室は、国際色豊かなバラエティーに富んだ研究室です。イスラムさんとトークしてみたいあなた、ぜひ物理ゼミに足を伸ばしてみてください。



わたしの研究室

応用経済学講座「古田研究室」

古田ゼミは、4年生8人、3年生7人、2年生8人で構成されています。この他に研究科に院生が1人います。このゼミでは、財政学・公共経済学の領域に含まれる諸問題を研究することを目的としています。また、財政学が政府活動を研究対象とする経済学の一分野であることから、公務員試験対策にも力点をおいて進められています。パソコンや大型コンピュータを使えるようになることも必修課題の一つとなっています。

ゼミでは、先生の研究分野である財政学・公共経済学を学ぶことになります。進め方は、テキストに沿ってゼミ生が報告し、その後で全体で議論するというような形になっています。教室では、張りつめた空気の中でゼミ生が報告し、その後で先生が問題をわかりやすく解説してくれます。そのため、ゼミで一生懸命に勉強すれば徐々に問題のエッセンスを見抜く力が養われていきます。

古田ゼミでは、勉強はもちろん、年数回コンパをしたり、テニスをしたり、冬にはスキーにいったり、とても楽しいゼミになっています。それは、先生がスポーツ好きであるからで、さまざまなスポーツをやっているらしいです。昨年のスキーツアーでは、らいちょうバレースキー場でみんなそれぞれのスキーを思う存分楽しみました。お昼には久々の再会に祝杯をあげました。そのおかげで午後からも楽しいスキーをすることができました。また先生のテニススクールでは、サーブの打ち方を教えてくれたり、最後にはダブルスのゲームをするなどおもしろおかしくテニスで盛り上がりました。

わたしたちのゼミでは、「現代日本の公共料金」（山谷修作編著・電力新報社）をテキストとして公共料金の問題を、理論、制度、政策の側面から体系的に研究しています。その他、公務員試験の対策として、「入門経済学ゼミナール」（西村和雄著・実務教育出版）を問題演習に使っています。

このような内容のゼミですが、興味を持った人はぜひ遊びにきてください。経済学の問題などで質問のある人は大歓迎です。お待ちしております。

おります。なお、先生の研究室は、4階にあります。また、下記のアドレスで電子メールを送ることもできます。

E-mail: furuta@eco1.
eco.toyama-u.ac.jp



経済学部
経済学科3年

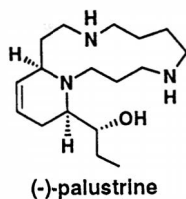
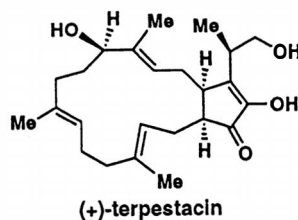
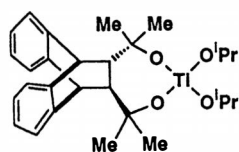
斉藤修一

わたしの研究室

合成有機講座第二研究室

理学部 理学研究科 化学専攻1年

今井亮二

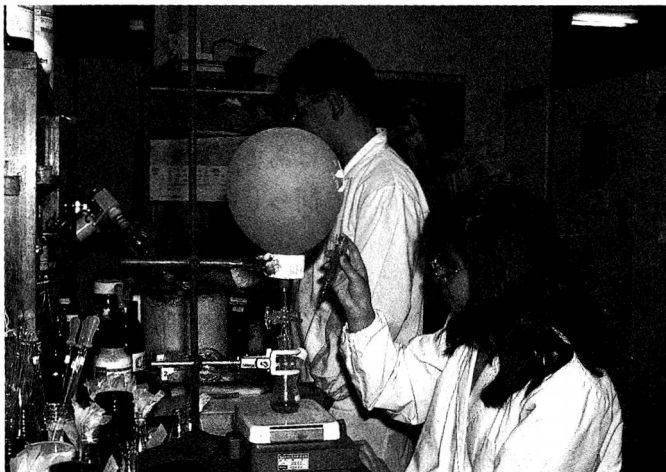


の中にはほとんど毎日、日付が変わるまで実験する人もいます。時間が長いだけでなく、実験中にさぼっけいようものなら容赦なく雷が落ちてきます。

ではなぜそんな厳しい研究室にみんな入るのでしょか。それは授業での平井先生のやさしそうな顔と、山口先生の巧みな話術に、みんなだまされてしまうのです。先輩がいくらうちは厳しいと教えても、信じずに入ってくる人が毎年います。今年もまた、新4年生がたくさん希望するのを見て、我々は「だまされている…」と思わずにはられません。

でも私たち学生は、嫌々研究をしているわけではありません。一人一人がそれぞれ自分の研究テーマを持っており、そのテーマは面白くて、やりがいのあるものばかりです。主となる研究は生物活性天然物の合成です。活性型ビタミンD₃誘導体や、ピペリジナルカロイド（パルストリン、シュードコンヒドリン、プミリオトキシンC etc.）、海洋生物からとり出した複雑な構造の化合物などを合成しています。天然物の中には薬の原料となるものが多いため、これらを合成することができればたいへんな成果となります。また、遷移金属を用いた立体選択的な反応の開発も行っています。本来、二つ以上の化合物が混ざって生成してしまうはずの反応に対して、適切にデザインされた不斉配位子を持つ、遷移金属等を用いて工夫することにより、好ましい種類の化合物のみを選択的に合成しようという試みです。これらの研究は、どれも成功すれば画期的なものばかりで、私たちは毎日、忙しくも充実した日々を送っています。

先生は、あるときは仏様のようにやさしく、またあるときは鬼のように恐ろしい平井教授、女の子とチャレが大好きな山口助教授、そして厳しさの中にも厳しさを持つ、最も厳しい横山助手という超強力な3人が揃っています。我々学生も、この先生たちに負けないよう懸命に戦っています。若いときの苦勞を買ってみたいという君、この研究室に来てみないか。



わたしの研究室

わが輩はタヌキである

工学部
生体分子化学I講座
一同

わが輩は、タヌキである。富山大学に迷い込んだ所を研究室の方に拾われてきた。この研究室は、生体分子化学Iと言うことらしい。その内容は、名前からはすぐに想像できない環境化学、高分子化学、分析化学、水素同位体研究であるらしい。我々タヌキが住み易いように、この研究室は環境について研究して下さっていることには頭が下がる。環境については、現在、環境汚染物質の反応・分解と樹木による大気汚染物質の吸収について研究しているらしい。環境汚染によって我々が命を落とすこともあるので、環境改善の研究は我々の生活の場が保護されることになり非常にありがたい。他に、我々の毛皮がいらぬように、高分子材料の研究や核融合の研究もしており、これは別の角度から考えれば環境保護になり、やはり我々タヌキの居住空間を保



護することになる。わが輩には難しいことは分からないが、高分子の研究は、現在、機能性高分子というものを研究しているらしい。光を当てたり電流を流すと色が変わったり、金属イオンを捕集できるものなどを作っているらしく、わが輩も見せてもらったが奇妙な物体であった。また、核融合の研究といっても、現在はトリチウムを用いて核融合を行ったときの環境への影響について研究しているらしい。

この研究室には、先生と呼ばれる人間がいる。一番偉そうなのは、長谷川と言うらしい。この人間は廃液処理施設や教務の仕事で忙しそうで、まとまった研究時間が取れないようである。祭り事をこよなく愛し、講座旅行、登山、スキー、陸上競技場で走ろうとすぐ誘うが、僕達には明日のためにエネルギーを蓄えておいた方がよい。次が神原と言うらしい。この人間は暇さえあれば研究している。わが輩には、全くいつ休んでいるのか分からない。体をこわさないようにといつも思っているしだいだ。トリチウムの研究は、渡辺、松山と共同研究らしい。この人間達は、別の研究所にいるらしいので、わが輩はあまり見たことがない。噂では良く研究をこなし、辛口トークが好きな人間らしい。

学生および研究生は、一癖も二癖もある人間どもで個性の塊である。それでいて衝突がない、実に不思議なグループである。こんな研究室ではあるが、環境、高分子に興味をもった人間は一度遊びにくるとおもしろいと思う。去年の夏に、久しぶりにわが古里の馬場島へバーベキューにいった。タヌキのぼくはさてどこでしょうか。



もっと国際交流を

経済学部経営学科4年

MOHD FAIZOL HJ ABD HAMID (マレーシア)

国際化が進められる日本に対して、これから外国から来る留学生はもっと増えると思います。たくさんの違う国、異なる文化から来た留学生を受け入れることは非常にむずかしいことだと思いますが、日本が国際化を進めるためには留学生を受け入れることは、とても重要な仕事だと思います。

私自身も日本に来てからいろいろな国の留学生と出会い、いろいろな経験が出来ました。それぞれの社会、あるいは文化、習慣を現地の人々から直接聞いたり、話したりすることが出来るということはとても良い機会だと思います。

以前から日本人と共に違う国の人々との交流について言えば、とても少ないと感じました。それは非常に残念だとしか言いようがありません。しかし、二年前に新しく出来た留学生相談室（旧一般教育教務係）のおかげで、国際交流の機会が広まり、国際化の意味と交流が感じられます。当相談室の事務の山ノ下クミコさんが担って、いろいろなイベント、案内、学習などの情報を教えてくれます。

国際交流は、単なるスローガンでは何にもなりません。もっともコミュニケーションにはテクニックが必要であり、われわれ留学生は国際交流のために、国と国との間に橋をかけるように、友好大使の役割としてよく働くべきであります。

四年間の留学期間は実に短い期間であり、やはりいい面の国際交流を探すほうがいいでしょう。そうすれば日本の印象はよくなるだろうと思います。

トピックス

総合情報処理センターの誕生

情報処理センター長 山淵龍夫



昭和59年11月から続いた情報処理センターが幕を閉じ、平成8年4月から待ちに待った総合情報処理センターが誕生します。実際に

新しい次期情報システムが導入されるのは来年度からで、より快適な環境が整備されます。総合情報処理センターへの格上げは1年に2大学程度で、各大学が競い合っているのが現状です。総合情報処理センターになると、レンタル予算が今までの2倍に増えます。人員も専任の助教授1名、技官3名、事務官1名と増員になり、2倍規模のセンターにふさわしい予算、人員配置となります。

近年、コンピュータの技術革新とネットワーク環境の整備が進み、どこの大学でも、センターの利用形態が大きく変わって来ています。本学でも、大型機の利用が減少し、ワークステーションやパソコンの利用が増えて来ました。これは、ある程度の能力なら、安価なコンピュータでも可能になって来たからです。ネットワークの利用者も増え続けています。本学では、ネットワークの高速化の予算措置で、4月から全学生がインターネットを使用できるようになります。インターネットという言葉が世間をにぎわしていますが、インターネットとは、世界中にあるコンピュータネットワーク同士を一つにつないで、互いに利用できる様にした巨大なネットワークです。利用形態は手紙をやりとりする電子メール、色々な所に蓄えられてい

る情報を利用できるWWW (World Wide Web)、コンピュータそのものを使うTelnet、テレビ会議など、考えられるほとんどのことが、日本国内だけでなく全世界を相手に可能です。特にWWWは、文字情報だけでなく、カラー画像や、音声情報を気軽に利用したり、作成できるようにソフト (Mosaic, Netscape等) が無償で配布されたため、爆発的に広まったわけです。便利なものは、瞬く間に広がって行きます。このようにインターネットは世界中に広がった無尽蔵とも言える膨大な情報を利用、かつ、情報を発信でき、これまでコンピュータにあまり縁のなかった人にも利用価値が生じてきたわけです。

ネットワークによる情報発信は非常に便利である反面、落とし穴があります。身近な人に知らせたつもり情報が、逆に誰からでも見られることを考えて見ると、身内の間では何の問題も無かった事が、著作権やプライバシーの侵害が起こるかも知れないことは容易に想定できると思います。この様に、ネットワークを利用、特に情報発信を行う場合は特に外へ及ぼす影響の配慮が必要で、ネットワークのエチケットが求められます。

このような時期に、総合情報処理センター格上げになることは富山大学にとって計り知れない利点があります。これからの情報化社会では、益々、コンピュータやネットワークは避けて通れません。社会に出てから困らないように、増強される環境を大いに活用して下さい。富山大学にはそれらを学ぶ環境は十分整っています。

総合情報処理センターのサービス紹介

総合情報処理センターでは、情報システムの効率的な運用管理を行い、次のサービスを行うことになっています。

- (1) 研究・教育のための情報処理サービス
- (2) 附属図書館書誌情報、計量経済関係データその他の学術情報データベースの提供
- (3) キャンパス情報ネットワーク (TYA-NET) , インターネット, SINET, BITNET等, 学内外の情報通信サービス
- (4) 情報処理教育支援サービス
- (5) 利用者のための講習会の開催および利用相談サービス

総合情報処理センターは、これらのサービスを行うため、現在400台のPC (パーソナル・コンピューター) , 25台のWS (ワーク・ステーション) , 4台のHPC (ハイ・パフォーマンス・コンピューター) , 大型汎用コンピューターおよびキャンパス情報ネットワーク・システムを設備し、情報処理サービス、情報通信サービス、情報活用サービスを行うとともに、これらのサービスを必要とする利用者に対して、プログラム言語、アプリケーション・ソフトウェアおよび関連マニュアルと利用の手引きを用意しています。

これらの情報システムは、平成9年1月までに大幅に更新される予定です。ベクトル・コンピューター、パラレル・コンピューター、グラフィック・コンピューター、グラフィック・ワークステーションが新たに導入され、情報処理教育用PCも、高速高性能で、マルチメディア対応のPCに変わる予定です。21世紀に向けて、大学の高度情報化を推進し、世界の中の富山大学をアピールするとともに、世界に貢献できる大学をめざしています。

インターネットで楽しく学ぶ学生生活

「インターネットのホームページ」という言葉を毎日のように耳にする人が多いと思います。今日では、WWW (World Wide Web: 世界的規

模のクモの巣という意味のデータベース・サービス) 上で、いろいろな情報を簡単に探すことのできるBrowser (情報内容を表示するソフトウェアでMosaicやNetscapeがある) を利用して、目標とする情報を素早くかつ簡単に入手できるようになりました。このWWW上の情報には今までのテキスト (文字) に加え、画像、映像、音響などを含めることができるので、メッセージやスピーチをはじめ、ビデオ映像や映画も観ることができます。いずれ様々な対話型教材や大学の講義も提供されるようになると思われます。NASAへアクセスすれば、あのアポロ11号で人類が初めて降り立った月面も、「…人間にとって小さな一歩だが、人類にとっては大いなる飛躍である…」というニール・A・アームストロング宇宙飛行士の肉声も、すぐに取り出せる時代になりました。

学生の皆さん! インターネットは世界最大の図書館と言われています。今こそ、情報宇宙への旅へ出発しようではありませんか。あの2001年宇宙の旅のOdyssey号のごとく…。そしてこの広大な情報宇宙の世界へ、皆さんも自分自身のボートを漕ぎ出しましょう。皆さんのそれぞれの目標とする基地 (各自の専門分野の知識の学習) を目指して、多くの冒険をしながら、たどり着いて欲しいと思います。時には、知らない土地に旅をし、自分を紹介して下さい。自分のホーム・ページを作って、世界の人々に情報を発信してみてください。世界の仲間があなたを待っているかもしれません。このインターネットのGive and Takeの世界では、情報をもらうばかりでなく、情報を提供する事も大切なことです。やがて、見知らぬ人から電子メールが届くようになると、アマチュア無線の仲間のように、友達の輪が広がっていきます。電子メールも、電子掲示板も、その他のいろいろなサービスも、自然に使うようになっていきます。

さあ、学生の皆さん! 素晴らしいインターネットの世界へ旅立ちましょう!

附属図書館の増築について

附属図書館長 瀧 澤 弘



待望の附属図書館の増・改築工事が始まりました。来春3月には、現在の建物の南側に6階建ての新館が完成し、同時に現在の建物の改築工事も済み、学生諸

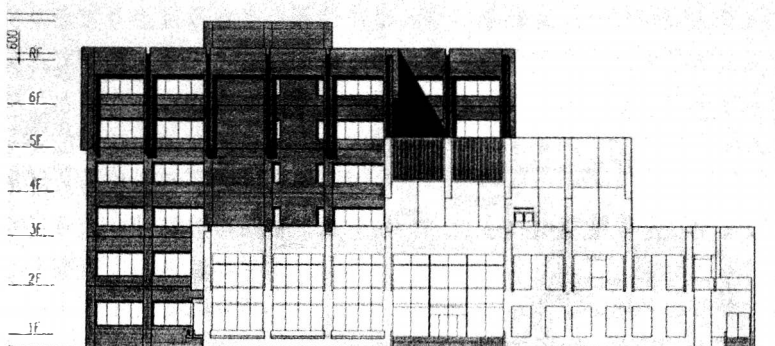
君の勉学や読書に快適な環境になります。以下、具体的に説明しましょう。

- 1) 学生用図書の配架スペースを広げ、閲覧席数も本館721席に増やし、配置も変えて、より勉強し易くなります。またビデオコーナーも充実させ、多面的な情報提供の場になります。
- 2) 学生諸君が図書館を利用する場合に戸惑わないように、ナビゲーション・フロアを設け、気軽に利用できるようになります。
- 3) オープンアクセス、つまり現在書庫にある図書の相当数を開架式にし、開架書架の周囲に閲覧机を配し、自由に図書を手にとって見ることが出来るようになります。
- 4) 人文社会系、理工系それぞれの専門雑誌の雑誌情報室を設けバックナンバー等を電動集密書架（開架式）に収容し、また文献複写室

を増設し、利用者に使いやすい図書館になります。

- 5) 留学生のための便を考え、地域情報・国際交流コーナーを設けます。
- 6) 電子情報化時代への対応として、各階にOPAC検索コーナーを設ける他、学内LANを利用した学習・研究できるマルチメディアコーナーや、利用者がパソコンの利用が出来るように情報コンセントの設置も考えています。
- 7) 富山大学の誇る貴重図書の保存については、世界的に有名なヘルン文庫は新館5階に移し、ヘルン閲覧室を設けてハーン研究者の利用に便宜を図ります。また河合・鷹栖文書等は現在のヘルン文庫の位置に移し湿度管理下で貴重図書の保存を図ります。

以上の様に増・改築によって、学生諸君にはずいぶん便利になりますが、増・改築が完成したのち、図書の移動などに多くの労力と時間が必要になり一時期の閉館も止むを得ないと思われます。しかし、学生諸君の利用に不便が少なくなるように、特に試験中の利用に不便が無いように努力致しますので、この点のご理解をお願い致します。



完成図（前面の白い部分は現在の図書館正面）



厚生関係の諸手続案内

1

日本育英会奨学金

- 次に該当する者は、至急、各学部の窓口それぞれの届出を行ってください。
 - 高校又は大学等において日本育英会奨学生であった者。

提出書類：在学届
 - 高等学校において日本育英会第一種奨学生採用候補者として決定している者。

提出書類：進学届
- 奨学生の募集について

出願資格 第一種奨学金 人物・学業ともに優れ、経済的理由により著しく修学困難な者。

第二種奨学金 人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学困難な者。

併用貸与 人物・学業ともに優れ、第一種奨学金の貸与を受けることによってもなお、その修学を維持することが困難であるとみとめられる者。

種類 第一種奨学金 無利子である。また奨学金返還特別免除制度がある。
第二種奨学金 卒業後の返還金に年3%の利子がつく。

貸与月額 自宅通学者 38,000円

自宅外通学者 44,000円

(第一種、第二種とも同額)

募集時期	学部1年1次	4月中頃
	学部2年以上	
	大学院	9月中頃
	学部1年2次	

以上のとおり、募集を行います。なお、願書の配布、説明会、出願締切日等の詳しい日

程については、各学部の掲示板でお知らせしますから注意してください。

2 地方公共団体及び

民間育英団体の奨学制度

日本育英会のほかに地方公共団体・民間育英団体の奨学制度があります。

大学を通して募集を行う育英団体については各学部の窓口の掲示板でお知らせしますが、大学を通さないものもありますので、希望者は、出身地の教育委員会、市町村役場等へ問い合わせてください。

なお、募集時期のほとんどは4～5月頃に集中していますので留意してください。

3

学生旅客運賃割引証(学割)

学割は、JR会社線の片道の営業キロが100kmを超える区間を、正課教育、課外活動、帰省等を目的として旅行しようとするときに交付を受けることができます。

交付枚数 1人年間約10枚

有効期間 交付の日から3か月

割引 普通運賃が2割引

申込受付 入学式の日から受け付け、発行は原則として申し込みの翌日以降になります。

申込先 各学部の窓口

4

通学定期乗車券(通学定期)

通学定期は、通学のための市内バスやJR会社線等の同一区間を乗車する場合、各学部の窓口で通学証明書の交付を受けることにより購入できます。

申込受付及び申込先は、前期の学割申込みと同じです。

各種奨学団体の内容について（主なもの）

設置者	団体名	種別	月額	出願資格	募集方法
地方公共団体	富山県奨学資金	貸与	38,000円	富山県に居住する者の子弟	各学部で募集 (出願は出身高校経由)
			(大学院) 81,000円	富山県に居住する者	各学部で募集
	石川県育英資金	〃	35,000円	石川県に3年以上居住する者の子弟	〃
	福井県奨学育英資金	〃	35,000円	福井県に居住する者の子弟	〃
	富山市奨学金	〃	24,000円	富山市に居住する者の子弟	直接当該団体に申し込む
	富山県上市町奨学金	給与	8,000円	上市町に居住する者の子弟	〃
民間育英団体	富山県魚津市奨学金	貸与	28,000円	魚津市に居住する者の子弟	〃
	吉田育英会	〃	(自宅) 41,000円 (自宅外) 51,000円	経済、工学系の学生	各学部で募集
	交通遺児育英会	〃	(一般) 40,000円 (特別) 50,000円	道路における交通事故が原因で死亡した者の子弟	〃
	中村積善会奨学金	〃	44,000円		〃
	富山第一銀行奨学金	〃	(自宅) 38,000円 (自宅外) 44,000円	富山、新潟、石川、岐阜県の富山第一銀行店舗所在地の出身者	〃
さねよし 實吉奨学金	〃	(大学院) 43,000円	工学系の大学院生	工学部で募集	

※ このほかにも、各種の奨学金がありますので、詳細は厚生課又は、各学部の窓口へ問い合わせてください。

5

アルバイト・家庭教師の紹介

経済的理由等でアルバイトを必要とする学生に対してアルバイト及び家庭教師を紹介しています。(新入生については、入学後1カ月間は紹介を行っていません。)

詳細については、学生部入り口の掲示板に掲示してあります。不明な点については、学生部厚生課まで問い合わせてください。

6

アパート・下宿・間借りの紹介

大学周辺の下宿等の紹介は、富山大学生活協同組合（以下「生協」）が行っています。

下宿等の紹介希望者は、大学食堂ホールに掲示してある「下宿・貸間紹介カード」の中から希望する部屋を探してください。

申し込み受付は、生協2階事務室で行っています。

7

富山大学学生健康保険

本学には、富山大学学生健康保険組合があり入学手続きの際に組合費（1年分1,200円。従って、学部学生の場合は4,800円。）を納めて組合に加入しています。

この保険は、病気やケガ（歯科を除く）の治療に要する経済的負担を、相互に救済するものです。（詳細については、「学生生活案内」に記載されていますので参照して下さい。）

8

学生教育研究災害傷害保険

この保険は、大学生が教育研究中に受けた災害・傷害に対して救済する全国的な制度であり、本学学生は入学手続きの際に保険料を納め加入しています。

この保険が給付されるのは、①正課中、②学校行事中、③通学中（①又は②の目的のため）においてケガ等をした場合です。

（詳細については「学生生活案内」に記載されていますので参照して下さい。）

平成7年度 後期授業料免除について

平成7年度後期授業料免除者の選考が、11月14日に開催された授業料等減免選考委員会で行われ、次のとおり決定しました。

なお、授業料免除及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課又は各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

区 分	出 願 者	免除許可者	不 許 可 者
学 部	3 9 4 人	3 6 6 (6 4) 人	2 8 人
大 学 院	1 0 2	9 7 (1 7)	5
計	4 9 6	4 6 3 (8 1)	3 3

() 内は、半額免除許可者で内数

保健管理センターだより

保健管理センターのご案内

はじめに

新入生の皆さん、大学生活は、勉学の面でも人間関係の面でもこれまでとは大きく変わります。だから人に言えないようないろいろな悩みもでてきます。保健管理センターはあくまでも諸君のプライバシーを護りながら、精神的および肉体的な問題についての相談相手になるために設けられており、そのための専門家もおります。一人で悩まず、気軽にやって来て利用して下さい。

(富山大学保健管理センター所長)

保健管理センターの主な業務

【学生相談】

◎身体的な健康相談

身体の健康についてどんなことでも、相談に応じます。身体の異常について気になるとき、自分ばかりでなく友人の場合の相談にも随時応じます。

◎精神衛生相談

精神的な健康に関する相談も応じます。センター内には相談室が設置されており、心理面ばかりでなく、修学、進路、生活など種々の相談に応じています。

◎精神医学

心理学的分野での研究あるいは勉学について希望があれば指導、援助をします。

◎電話相談

センターへ来所出来ない場合は次の電話でも相談に応じます。

電話番号 A 相談室 0764-45-6913 (直通)

B 相談室 0764-45-6914 (直通)

相談時間

月 曜日	午前10時～午前12時
金 曜日	午後1時～午後4時



【健康診断】

健康診断は、病気の早期発見・健康の保持・増進のための援助を目的とするもので、センターでは年に1回(4～5月)、全学生に対して定期的に行っています。

また、進学・就職試験やクラブの試合・体育実習・奨学金出願等、健康診断証明書が必要となる機会が意外と多く、そのためには定期健康診断を受けていないと出せないで必ず受診して下さい。

【救急処置】

◎ ケガや病気になった場合の応急処置等は随時行っています。

◎ 気分の悪い時などには休養もできます。

【その他】

◎ 健康診断書の作成

◎ 学生健康保険の取扱い窓口

そ の 他

【レクリエーション・セラピー室の開放】

センターの一室をレク・セラピー室として皆さんに開放しています。

レク・セラピー室は、仕事や勉強の余暇を利用して、いろいろの器具で自分の運動能力を確かめたり、ゲームをしながら、あるいは語り合いながら精神的・肉体的に新しいエネルギーを盛りかえす、あるいは(再)発見するための部屋です。

◎室内には、体力測定器具(トレッドミル、ツイストマシン、エアロバイク、バーベル等)や健康器具(ローリングベット、自動血圧計、身

長・体重計)や又、囲碁、将棋、オセロなどの遊具、エイズ予防に関するビデオテープなどが備えてあります。

◎ゲームや語らいを通して人と人との輪を広めていく場ですので一人で、あるいは友人を誘って気軽にご利用ください。

◎使用時間(月曜日～金曜日)

午前9時～午後4時30分

【ボディソニック】

心身のリラックス等の目的のため設置しており、希望者の申し込みにより使用できます。

【保健管理センター職員】

所長(兼任) 中村 剛
 教授(神経精神医学) 中村 剛
 講師(臨床心理学) 西村 優紀美
 看護婦 山端 憲子
 〃 角間 純子

その他、学校医が定期的に来所されますので、気軽に来談して下さい。(くわしい事はセンターへ問い合わせ下さい。)

内科医……品川, 羽田

整形外科医……市堰

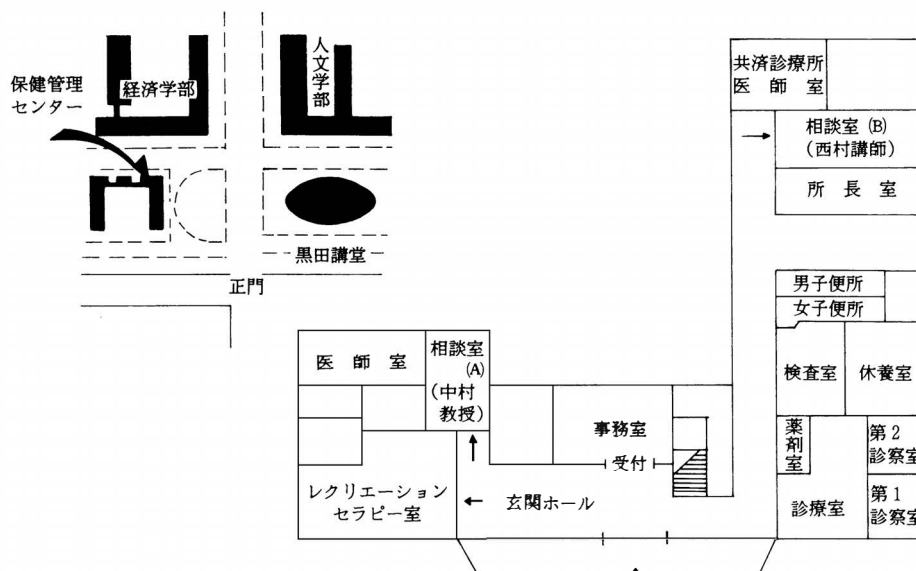
保健管理センターの年間主要行事

月	主要業務	月	主要業務
4月	・新生健康診断 ・在学生健康診断 ・新生健康状況アンケート ・『ほけかん』発行予定 ・全学生胸部X線間接撮影	7月	(※) ・臨時検診(水泳実習参加者) ・『ほけかん』発行予定
		10月	・エイズ講習会
5月	・在学生健康診断 ・大学院生健康診断 ・全学生胸部X線間接撮影	12月	・臨時検診(スキー講習参加者) ・『ほけかん』発行予定
		1月	・臨時検診(寒中水泳参加者) ・運転手健康診断
6月	・胸部X線直接撮影(再検査を要する者) ・眼科・耳鼻科の相談 ・内科の再検査を要する者の健康診断 ・放射線装置に携わる学生の特別健康診断	2月	・臨時検診(スキー講習参加者)
		3月	・『ほけかん』発行予定

(※) 印は希望者も含む

保健管理センター平面図

(学生部・保健管理センター1階 ☎0764-45-6911直通)



目もらいくくり

保健管理センター教授 中村 剛

「また、目もらいかい。不潔な手で、目をこするからや。そうそう、目もらいというのはね。バクリュウシュというて、まぶたにある瞼板腺にバイ菌が入ってできるんや、と。こんどから、汚い手で目をこすったらだめや」。おふくろは文句をいいながら、アルマイトの深皿にお湯とガーゼと目分量の硼酸をいれている。

「バクリュウシュとは恐ろしい。目ん玉がふっ飛ぶような気がする。」

「ほんと、爆弾と手榴弾のあいのこみたいやね。ホホ。でも、本当は麦の粒のように腫れるんで、麦粒腫と書くんや、と。ニクヅキに重い、と書いて“シュ”。」

アルマイトの深皿を火にかけると、おふくろは猫の額ほどの庭に出ていったが、やがて藁（わら）しべをひと筋もってきて、「ハイッ」とボクに向かって威儀を正すように合図する。すでに、藁しべの真ん中あたりには直径2センチほどの結び輪がこしらえてあり、おふくろはその両端を手に行っている。この輪でもって目もらいの病魔をくくって火刑にする魂胆なのである。

「やっぱり、これ、せんといかんかなあ。」

「そう。」

保育所のころは、この儀式が唯一無二、目もらい退治の特効薬と思っていた。小学校のころは、なんとなく面白くてやっていた。中学生ともなると、こんなお呪（まじな）いに毛ほどの価値もないことは、もう、じゅうぶんに見抜いている。そのうえ以前なら、藁しべの輪がなにやら妖しげな霊力の予感さえただよわせていたはずだが、いま目の前にあるやつときたら、でれーっとして締まりがない。そもそも藁しべには、しゃっきりとした弾力と、色艶に気品、それに微かな陽と土の匂いがそなわっているのが通例で、さればこそ古代

から、その贅肉を削ぎ落としたスマートさと芯の強さに畏敬の念を抱いたわれわれの祖先が、藁しべを神社の注連縄（しめなわ）や箒の先に採用したのである。藁しべはわれわれ日本人のころと生活の塵芥を払い浄めるのにおおいに貢献してきたのである。

ところが、上の話は目の前の藁しべには、まるで通用しない。なにしろ、身元があやしい。ニワトリ小屋にミカン箱が置いてある。その中にクッション代わりに藁を敷き、真ん中に「こんなタマゴを（お願い）」と、産卵に臨むメンドリが参考にしたくなるような、形の良い石をさりげなくいれておいた。そこまではよいとして、箱の中の藁しべのほうは、タマゴを生むたびにメンドリが蹴散らすので、芯まで疲れてクタクタになっている。そこからひと筋だけが、呪いの祭具にとりたてられたわけである。藁しべのほうは、出世かもしれないが、患者のほうはとても敬虔な気持ちになれない。こんなクタクタなのが目もらいの悪鬼に対抗できるわけがない、と思う。といっても、藁しべにケチをつけると、モノがモノだけに、今度はトリ目にされるかもしれないし、どっちにしたって迷信だ、迷惑だ。

しかし思いなおしてみると、おふくろの方こそ、もう何十年も前から、この儀式が迷信であることぐらいは百も承知でいるらしい。現にこうして、おたがいの膝と膝とが触れ合わんばかりに真近く、正座で相對してみると、真顔をよそおった、おふくろの目尻が笑っている。

（こんな迷信とはそろそろお別れした方がいいに決まっている。が、心のどこかに、この種の未熟な母子関係の尻尾をひきずっていたいようなところもある。しかし現実はそのようなドリーミーなものではない、なにしろ藁しべの輪が目前に迫って

キャンパスウォッチング

—工学部壁画「無限の創造」について—

教育学部教授 丹羽 洋介

この壁画は、縦2.7m、横12mのフレスコ画です。前回ご紹介した図書館の壁画がパネル下地であるのに対し、こちらは建物の壁画に漆喰を直接塗り付けて制作したもので、建物と完全に一体化した壁画です。

私が本学に着任したのは昭和58年4月で、その年の冬中かかって制作し、完成したのは59年4月です。厳冬期で、しかも建設中の現場での制作でした。玄関のガラスもまだ入ってなく、シートの隙間から雪が吹き込む有様で、寒さに震えながらの制作は、暖国育ちの私にとって、富山の冬の厳しさの〈洗礼〉を受けたようなものでした。

授業のある時は夕方からの制作になるので、工学部横の土手の道はいつの間にか1m近い積雪になっていて、寒冷地仕様でない愛車が見事に雪の吹き溜まりの中で立ち往生してしまったのも今となっては楽しい思い出です。

凍結を避けるため、厳冬期に塗り壁の工事はしないのが常識ですから、その意味でもこの壁画は記録的な実験作だといえるかも知れません。

ところで、この壁画に関して、当時はまだ初心な青年？だった私にとって忘れられない思い出があるので、それを述べたいと思います。

着任した年の初夏だったので、まだ大学に慣れていないピッカピカの新任でした。大澤教育学部長（当時）から「すぐに学部長室に来なさい」と電話がありました。小学生の頃に職員室に来いと言われた恐怖の感覚が蘇り、きっと何かマズイことがバレたに違いないと、思い当たることをあれこれ（それほどあるわけではないですが）心配しつつ学部長室に行きました。すると、理由も言わずに「学長が呼んでいるから学長室に行くように！」

私も同行する」とこわい顔で言われたのです。

「これはもうダメだ」と観念して柳田学長（当時）の前に立ったのです。ところが、予想に反して学長はにこにこしながら、建設中の工学部の管理棟に壁画を制作してはどうかと言われたので、本当に驚きました。

どのような経緯でこうなったのか、今でも謎ですが、自ら音楽家として芸術をこよなく愛す大澤先生の強い推薦と、同じく芸術を愛する柳田先生のご配慮によるものだと深く感謝しています。

この壁画は私にとって富山大学内での初めての作品であると同時に、初めての抽象的な作品です。基本的な構図である中央の円とその両側の形は、^{つち} ^{たがね} 槌と鑿で、ギリシャ神話のエンジニアの神であるヘーパイストスの象徴です。色彩は出来るだけ淡く微妙なトーンで抑えたので、毎日見続けても目が疲れて勉学に差し支えることはないと思います。

最後に、この壁画は薄暮に専用の照明（廊下にスイッチがある）を点けてみた時に最も美しいと思います。ぜひ試してみてください。



◆◆◆◆◆ 学園ニュース編集委員 ◆◆◆◆◆

学生部長 浜谷正人

人文学部 中村雅之

〃 高安和子

教育学部 竹浪 聰（顧問）

〃 呉羽 長（顧問）

経済学部 駒城鎮一

〃 白石俊輔

理学部 川崎一朗

〃 小松美英子

工学部 女川博義

〃 杉本益規

